

令和5年度 第1回 学校運営協議会 記録

R5.5.23 (火) 13:30~15:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）

- 木下清史氏（三方原地区根洗町自治会長）
- 宮津輝雄氏（細江地区湖東自治会長）
- 安達 広氏（社会福祉法人聖隷事業団 医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院 執行役員・事務局長）
- 堀内 剛氏（浜松市社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター
福祉センター所長）
- 加藤久貴氏（弁護士法人 リコネス法律事務所 弁護士）
- 山田浩昭氏（静岡県総合教育センター 専門支援部特別支援課 特任教官
前浜松特別支援学校校長）
- 松本浩一氏（西部特別支援学校 PTA 会長）

※校内参加者 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、 訪問教育主任、教務課長、総務課長

<学校運営協議会>

- 1 開会の言葉
- 2 校長挨拶
- 3 委員の任命
- 4 自己紹介
- 5 校内一巡
- 6 会長・副会長・地域コーディネーターの選出
会長…山田委員 副会長…堀内委員 地域コーディネーター…山田委員
- 7 令和5年度学校経営計画について、校長より説明
- 8 学部経営（小学部・中学部・高等部・訪問教育）について、各部主事、訪問教育主任より説明
- 9 意見・助言
 - ・ A委員：学校における BCP 計画はあるのか。
⇒会終了後に確認、BCP 計画の代替になるものとして、本校の危機管理マニュアルに学校再開に向けた校内組織対応（発災から1か月程度での再開を目標としたケース）を示してある。
 - ・ A委員：学校は職員不足だと思うが、チームワークで乗り切ってほしい。
 - ・ B委員：関係機関との連携・協働が必要ではあるが、地域の自治会でもやれることはあると思う。遠慮なく声を掛けてほしい。
 - ・ C委員：目標に向かって一生懸命やるのが大事。教員の専門性向上は、1年と言わず、2年、3年の専門性を身に付けて行ってほしい。
地域に畑が余っているので、よかったら使ってほしい。
 - ・ D委員：学校経営計画が各学部に関連している。達成方法は、評価するものさしがあ

ると良い。

職員の多忙さを解消し、働きやすい環境を作っている様子が伝わる。

- ・ E委員：アップグレードしている目標と継続して取り組んでいる目標が整理できていると良い。また、達成できなかった目標の分析も大事である。
⇒今年度は、防災、研修、OJTなどの部分を変更している。振り返りを行いながら、取組目標や成果目標などを変えている。
- ・ F委員：防災教育、避難方法などは、地域の自治会や企業などと連携できると良い。行政と民間が協力していけると良い。
発電機など、1回使ってみることが大事である。
⇒自分たちで避難することが難しい子たちなので、職員が意識を高めて、いざというときに動けるようにしたい。

※今年度の学校の経営方針についての承認を得る。

10 第2回にむけて

昨年度、学校から提案した内容について再確認をする。

(例)・医療的ケアや人工呼吸器使用の児童生徒を知ってもらう機会

- ・ 様々な食形態を知る機会
- ・ 地域の方々と一緒に花壇作り
- ・ 学校行事におけるボランティアの参加、読み聞かせ
- ・ 地域人材の活用
- ・ 地域での学習や実習に関する情報
- ・ 災害時の避難所及び食料等の確保が必要 など

B委員：被災時の避難所は豊岡小学校、三方原中学校である。飲料水の確保や食料の確保等を行っていかなくてはならない。

⇒次回、委員の方に意見を出していただくことを伝える。

11 閉会の言葉

<校内コンプライアンス委員会>

1 開会の言葉

2 学校の取り組み説明

3 意見・助言

- ・ E委員：学校の固定電話か学校の携帯電話でしか保護者に連絡できないことは、トラブルを避ける意味では、校外や自分の携帯電話から連絡を取れない環境になっているので、良い。
- ・ D委員：緊急のときはどうするのか、ガイドラインに具体的な事例があると良い。日常的なルールとしては十分であると思う。
- ・ G委員：交通事故、交通事犯には本当に気を付けてほしい。
- ・ C委員：バスが姫街道から校内に入るときに、対向車を止めて入ることが気になる。
⇒いろいろ検討したが、なかなか良い方法が見つからない。
体育館などの施設を地域の余暇活動などのために開放することは可能か。
⇒可能である。

4 お礼

5 閉会の言葉